

1 学校教育目標

- 1 自らが課題を認識し、仲間とともに解決に向けて思考・判断し、行動できる「生きる力」を育成する。
- 2 ビジネス分野における新たな価値の創造に挑む、商業の「スペシャリスト」を養成する。
- 3 幅広い「教養」と豊かな「人間性」を身につけさせる。

2 目指す姿（学校像・生徒像・教師像）

- 人と人をつなぎ、多様な力を生み出し、社会に広げる行動的な人材を育成する学校
- 自らの力を試し、協働して諸課題の解決に挑む生徒
- 基本的な生活習慣を身につけ、前向きに取り組む生徒
- 将来に希望を持ち、望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に挑む生徒

3 現状と課題

- 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等による「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。
- 経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成できるように改善・充実を図る。

4 目標

<p>[中期経営重点目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思考力・判断力・表現力の育成と学びに向かう内発的動機付けの工夫 ○ 道徳教育の充実及び保護者・地域社会との教育ネットワークの充実 ○ 業務の明確化と改善策の検討 	<p>「評価結果」の評価基準について</p> <p>4：目標達成 3：目標を達成していないが、成果が見られる 2：目標を達成しておらず、成果もあまりないため方策の見直しが必要である 1：目標を達成しておらず根本的に見直しが必要である</p>	<p>[評価指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習評価方法の早期確立と評価の活用による授業改善と学習意欲の向上 ○ いじめや学級内の問題に対する組織的な対応、HP等で高頻度に学校の魅力を発信 ○ 定時退校日(17:30までに退校)の実施頻度
---	--	--

短期経営重点目標（2年目）	評価指標／評価結果	主な具体的方策	実施状況	分析結果(○は成果、●は課題、◎は改善点)
<p>各教科における「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業展開と新学習指導要領に基づく学習評価の実践的研究により、学習意欲が高まったとする生徒を70%以上にする。</p>	<p>生徒アンケートにより学習意欲の高まりを客観的に把握</p> <p>「受け身にならず主体的に授業を受けている」 69.0%</p> <p>「対話してお互いに理解を深めている」 93.7%</p> <p>「協働して取り組んでいる」 91.4%</p> <p>「自ら調べ学習」 56.0%</p> <p>「学習意欲が高まった」 55.8%</p> <p style="text-align: center;">評価 (4段階) 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科において、授業改善やICTを活用した授業実践、研究授業、学習評価の研究と実践を行い、全教員で共有する。 ○ 各授業において、生徒がESDの学習内容に関心を持ち、自分事として捉え、学びに向かう動機づけとなるよう工夫を行う。 ○ 起業家教育について研修を行い、教員に必要性和認知度の向上を促し、生徒にも実際の経営者の講話を聴かせる機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生の教室へ鍵付ロッカーを設置し、使用ルールの制定とともにタブレットを用いた授業を開始した。 ・相互に授業を観察し合う「授業観察月間」を年間2回実施した。期間中ICTを活用した授業が43.8%。 ・総合的な探究の時間(6月)の起業家による講話をはじめ、外部講師[コースアドバイザーを除く]による講話の機会(5回)を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTツールが整備されたことで、今後実践が増えるとともに有効な活用の実践の共有が促進される。 ○ 教員の授業観察回数が、20回(前期)から50回(後期)に増加(2.5倍)した。教科横断的学習についてさらに検討していきたい。 ○ ICTを利活用した授業が徐々に全校的共有へと広がりを見せている。 ○ 講話を通じて、生徒の「学校における学習意義の理解」と「今後の学習意欲」を創出した。 ◎ 観点別学習評価を踏まえた授業実践については、次年度も研修等を継続して、全教員で共通理解を深める必要がある。 ● 年間目標である「学習意欲が高まった生徒」は55.8%に留まった。生徒が自ら学びたい学習形態・方法・内容について今後も研究を継続していく必要がある。
<p>地域と連携し、生徒の主体的な活動として、人権意識、公共マナー、交通マナーの向上や奉仕活動などに取り組み、学校内外での行動意識が高まったとする生徒を75%以上にする。</p>	<p>生徒アンケートにより社会貢献や公共マナーに関する意識を把握</p> <p>「挨拶/マナーの習得」 74.3%</p> <p>「公共意識の向上」 92.1%</p> <p>「社会貢献への取組」 56.8%</p> <p style="text-align: center;">評価 (4段階) 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校集会等を活用し、地域の方や管轄の警察官から交通安全や公共マナーに関する講話をしていただき、地域における学校の役割を考えさせる機会を持つ。 ○ 生徒会の各委員会やピースデパート役員会、部活動生徒などの有志に地域の安心・安全・快適な生活に貢献できることを考えさせ、生徒の主体的な活動としてのボランティア活動や啓発活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内モニターを活用し、交通マナーや公共マナーについて生徒へ考えさせる機会をもった。登下校中の交通事故は18件(1月末現在) ・結果中止となったが、牛田地区の交通マナー指導(9月)へ教員8名が参加申込みした。 ・牛田中学校区地域美化活動(11月)へ、写真部、園芸部生徒が参加し清掃活動を行った。[広島市グッドチャリティ賞を受賞] ・地域企業等と連携した「広島市商ピースデパート」では、安心安全な開催に向けて生徒が行動した結果、来場者を制限すること無く開催できた。 ・「安心・安全な街づくり高校生プロジェクト会議」に生徒4名が自発的に参加し、他校生徒と協働して市議会にて提案を行った。 ・「広島魅力発見プロジェクト」の主管校として、広島市域の観光発信に向けて、市立高等学校7校の参加生徒が主体的に行動を起こせるよう環境づくりを行った。 ・情報モラルの育成については、折に触れ、学級担任や生徒指導部が中心となり注意喚起してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校集会や講話を実施した際には、生徒から共感的な意見や積極的な意見を多く聞かれた。生徒の意識を日常の行動へ昇華し、持続させるよう指導の工夫を検討していきたい。 ● 交通安全について定期的に指導しているが、依然として登下校中の交通事故が多いことから、啓発に向けて指導の工夫を検討していきたい。 ○ 地域清掃活動への参加生徒数、広島市商ピースデパート来場者数とも昨年度を上回った。 ○ 生徒が自ら考え行動できる仕組みをつくることで、「社会貢献への取組」が54.3%(前期)から56.8%(後期)へ向上した。 ○ 本校の広報活動において、多くの生徒が自発的・主体的に参加を表明し、生き生きした姿を披露した。本校の知名度向上に寄与した。
<p>業務改善を進め、全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校時間を45時間以下にする。</p>	<p>毎月の勤務時間外の在校時間が45時間以下の教職員の割合： 50.9%</p> <p>毎月2回以上の定時退校(17:30までに退校)を実施した教職員の割合： 72.2%</p> <p style="text-align: center;">評価 (4段階) 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動や補習授業等で複数担当制による負担軽減と定時退校日を実施する。 ○ 分掌・学年会・教科会で業務の見直しを図るとともに、優先順位の高いものから実施する。併せて書類のクラス配付・回収の工夫で担任の負担軽減を図る。 ○ 不祥事や事故など想定外の対応事案が起きないように事故防止の意識を高めるとともに、事前に想定される対策やマニュアルの整備・確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の休業日を年間行事予定として年間2日設定したが、授業時数確保のために実施は断念した。 ・部活動等で活動頻度・内容を考慮し、顧問の割振りの適正化を図った。また、部活動の無い日を定時退校日とすることなどを推奨した。 ・定期試験を行う全教科で「自動採点システム」を導入実行した。 ・成績処理に係る業務改善(チェックシートの導入、成績処理の時間設定)を行った。その他、各種アンケートにQRコード等を導入した。 ・具体的事案に基づく協議やロールプレイを取り入れるなど、服務に関する研修を実施した。管理職による個別面談も実施した。 ・商業科会、バスケ部・バドミントン推進プログラム実施委員会、校務運営会議、学年会等において、ICT端末を利用することでペーパーレス化などの業務改善を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験を実施する全教科が自動採点システムを導入したことから、組織全体の業務改善に繋がった。 ○ 成績処理に係る業務改善により、採点評価時の業務量とミス削減が図られた。 ● 会議に係る配付書類の精査や業務の見直しを今後も継続していく必要がある。

5 学校関係者評価に関する事項（主な意見等）

○学校評価に関するアンケートを実施する際には、評価の客観性を高めるために、教職員と生徒が「主体性」「対話」「協働」など使用する語の定義や目指す姿を明確に共有しておくことが肝要。

○交通マナーや挨拶など、改善の余地あり。生徒が実感を伴って主体的に取り組めるよう指導の工夫をお願いしたい。

6 その他の報告事項

○学校運営協議会から、エレベータの設置について委員の連名で教育委員会へ要望する意向が示された。